目黒稲門会会報

＊＊設立第10回記念総会特集号＊＊

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第４４号　2009年 9月

発行人：八幡和三郎　編集長：服部 尚彦　事務局長：吉田 博行

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-47-5　Tel 03-3713-2096

第10回　目黒稲門会定時総会開催

2009年7月12日（日）こまばエミナースにおいて、103名の方々の出席を頂き目黒稲門会第10回記念の定時総会が開催された。総会は石川智子幹事司会により、先ず早稲田大学学事顧問・奥島孝康前総長以下10名のご来賓の紹介があり、特に今回は当会設立10周年に当り、設立時の功労者として、田中見世子・早稲田大学維持員、野崎敬二・校友会常任理事・豊島稲門会副会長、三木祐二郎・早稲田大学教務部参与のご3方にご来席頂いている旨の紹介があった。

続いて八幡和三郎会長より以下の通り開会の挨拶があった。10周年記念総会に多数の会員の出席と、奥島前総長が極めて御多忙な日程を割いて出席頂いたこと並びにご来賓の皆様のご参加を頂き、当会としてはこの上も無い喜びである旨の謝意表明があった。

次いで、当会が各部会の活動を中心に動いて来た10年を振り返り、現在活動中の11部会と広報編集委員会について、部会長並びに幹事役の名前を挙げてご苦労と努力に感謝の意を表された。 中でも画期的であったのは俳句の会で、佐藤喜孝さんが宗匠で部を作り、数ヶ月しか経っていないのに、既に一流2紙の俳句欄に佐藤さんと紀本さん2名の句が採り上げられ大きな成果を上げた。当会は部会活動を中心に皆生甲斐のある生活を送っており、この根底にあるものは矢張り早稲田大学に共に学んだこと、共に都の西北を歌ったことをベースにして生き生きとした生活をしているということです。江戸時代の漢学者が「老いても学べば死すとも朽ちず」と言っております。人間は最後まで勉強をしなければいけないと言う事だと思います。

会員の皆様、この会は会員自身の活動で作り上げら

れて行く会です。これからも早稲田に学んだ喜びを噛み締めながら元気に生きて行きたいと思いますし、人生劇場と言うと奥島先生が御本家ですが、我々自身の人生劇場を充実させるべく頑張って行きたいと思っておりますと挨拶された。

次いで来賓代表として奥島前総長より概略以下の如き祝辞を頂戴した。

私は現在色々なボランティア団体の理事長とか会長を20位努めさせて頂いているが、総長時代と同様に月月火水木金金と言う気分で日曜は無いと覚悟している。私が学生の頃法学部で最初に定年を迎えたのが大浜信泉先生（第7代総長）です。それ迄特に法学部を支えた有名な先生方が定年を迎えず逝かれてしまった訳で、そう言う意味で私も定年を全うすることが出来ることを大変嬉しく思っている。8年前私が早稲田のスポーツ全種目制覇と言う目標を出した所、皆さんから笑われたが、これが現在はほぼ9割方達成されたと思っている。早稲田は勉強も頑張っているが、御存知の様にスポーツ王国早稲田も取り戻していると言える。勉強の方も研究者の層が厚くなって来ており、私が総長に就任するころから教育研究の場も極めて充実した状況にあり、愈々早稲田も本格的に世界の大学と

して名乗りを挙げる所に近付いて来ており、皆様と共に慶びたい。

私は総長時代から、アジア志向、生涯学習、マスコミ・政治の分野で早稲田独自の情報網作りの3目標を立てて進めてきた。その後もこれが受け継がれて非常に大きな力を持つ様になって来た。また、私はアジア研究機構長としてアジアの研究に力を入れているが、専門の法律の方も仕上げをしたいと言う事で今次々と本を出している。2年前にはそろそろ私も今後の人生設計を考えねばいけない時期にあり、NHK始め色々話もあったが、早稲田を終わった後はボランティアで世の為、人の為汗を流したいと思っていたので断って来た。それから6ヶ月後高校野球連盟会長の話が来て引き受ける事とした。その高野連と言うのは、子供達にとって一番決定的な人生の時、その時彼らをどう教育するか大事な問題であり、私が会長を引き受けたのには大きな切っ掛けがあった。

私が総長の時早慶戦100周年の記念式典があった。その時両校は100年戦った時の選手の名簿を出して来た。慶応は全員卒業年度が書かれた名簿を出したが、早稲田の名簿にはなんと入学年度しか書かれていない。私はこれを見て顔が熱くなる思いであった。早稲田の野球部学生は殆んど卒業していなかった時期がある。私は今後レギュラー選手が卒業しない様な部は部として認めない。廃部するか、或いは部として一切の援助をしないと宣言した。その後、各部とも徹底的に授業に出席し、ちゃんと卒業する様にという指導が行き届いて来た。そうすると実は次々と優勝する様な部が出始めた。私はこれが大事なのだと確信した。

今、高校野球は大きな岐路に差し掛かっている。野球学校と言われる様に、無条件で進級させ、単位を取らなくても卒業させ、生活は丸抱えという高校が次々出てきたからである。私はそこに危機感をもっていたので高野連会長を引き受けた。私は今までの様な無条件卒業、生活費丸抱えの様ないい加減な遣り方は認めない。高校というのは高校の学力を確りと身につけるのが前提であり、高校のスポーツはスポーツを通じてお互いが鍛え合うという教育の一環としてのスポーツを追求してゆくべきであるとした。

その方向性は出来てきていると思う。要するに、これからの日本の希望は少子高齢化の時代に子供達をどう育てて行くか、これしか無いと考える。今、日本全体を考えた時、矢張り若者が健全な心身を持っていると言うのが非常に大事であり、そういうことを高校野球を通して子供たちに叩き込んで行かねばならない。

坪内先生の唱えた「知識より感銘を、感銘より実践を」は、私も同感で総長時代に繰り返し述べて来たが、今、漸くそう言う感じが早稲田にみなぎって来たのではないかと思っていると挨拶された。

次いで、総会は横山副会長に本総会の議長を委嘱、横山議長は次の6議案を1～3号議案と4～6号議案に分けて順次付議、採決、異議無く承認された。

1号議案　「平成20年度事業報告」
2号議案　「平成20年度会計報告」
3号議案　「平成20年度監査報告」
4号議案　「平成21年度事業計画」
5号議案　「平成21年度予算案」
6号議案　「平成21年度役員構成」

目黒稲門会　第10期決算報告書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

《収入》 単位：円

科　目	実　績	備　考
前期繰越金	643,368	
年会費	780,000	5,000×149名=745,000 2,500×6名=15,000 過年度会費20,000
総会収入	494,000	参加63名
新年会収入	595,000	参加76名
組織強化費	142,000	早大校友会
雑収入	1,112	利息
合　計	2,655,480	

《支　出》

科　目	実　績	備　考
総会費	355,886	会場費他
新年会費	350,529	会場費他
会報費	459,375	会報制作費、印刷費（1色600部、多色400部）
部会運営費	120,000	囲碁・ウォーキング・カラオケ・グルメ・ゴルフ 俳句・美術歴史・麻雀・旅行・よん月・会報編集、事務局
会議費	153,678	商議員年会費、役員会、編集会議・会議室借料
交際費	108,430	東京23区支部幹事会等
通信費	144,163	会報発送費他
事務用品費	149,890	角封筒印刷代他
ホームページ経費	36,528	ニフティー使用料
雑費	22,885	会費振込み手数料
繰越金	754,116	
合　計	2,655,480	

注：次期繰越金内訳　・三菱東京UFJ銀行　学芸大学駅前支店　752,144円
・三菱東京UFJ銀行　中目黒支店　1,417円
・ゆうちょ銀行　目黒店　555円
合計　754,116円

監査報告書

私たち会計監事は、平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第10期会計年度の会計報告を監査致しました結果、適正かつ正確であることを認めます。

平成21年4月14日　目黒稲門会　会計監事　島田久家　㊞
会計監事　林田雅敏　㊞

目黒稲門会　第11期予算

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

《収入》単位：円

科　目	金　額	備　　考
前期繰越金	754,116	
年 会 費	760,000	@5,000×152名
総 会 収 入	520,000	@8,000×65名
新年会収入	480,000	@8,000×60名
組織強化費	137,000	早稲田大学校友会援助費
雑 収 入	0	
合　計	2,651,116	

《支　出》

科　目	金　額	備　　考
総 会 費*1	700,000	会場費500,000　10周年企画費200,000
新 年 会 費	500,000	
会報発行費*2	450,000	会報印刷代400,000＋予備費50,000
部会運営費	120,000	囲碁・ウォーキング・カラオケ・グルメ・ゴルフ・俳句・美術歴史・麻雀・旅行・よん月・会報編集・事務局@10,000×12部署
会 議 費	150,000	役員会等の会議室賃料、商議員会費
交 際 費	150,000	23区支部幹事会等
通 信 費	150,000	会報発送費等
事務用品費	150,000	業務用封筒、事務消耗品
ホームページ経費	36,000	ニフティー使用料
雑　費	23,000	振込費用等
次期繰越金*3	222,116	
合　計	2,651,116	

＊1　総会費：10周年記念発刊「早稲田史発掘」制作・印刷費含む

＊2　会報発行費：新規開拓用会報増刷り費含む

＊　　3　各予算について、次期繰越金(21年度)の大幅減を考慮して実行すること

総会終了後、懇親会開始までの間、大多数の方々が10周年記念の展示コーナーで展示物を鑑賞しながら歓談された。　展示は囲碁部会、カラオケ部会、グルメ部会、ゴルフ部会、ウォーキング部会、旅行部会、美術・歴史鑑賞部会、俳句部会、広報編集委員会、地域活動史などが工夫を凝らした手作りポスターと展示品で日頃の活動を紹介する一方、会員の活動参加を呼びかけた。　また、同時に会員の写真展、絵画展が開催され、文化祭に華を添え、展示コーナーは来賓、参加会員の方々の好評を頂いた。

設置されたカクテル・コーナーでは林田監事と浅海幹事長がバーテンダーとしてカクテル・メーキングの腕を振るわれ、コーナーの周りに群がる試飲希望者へのサービスは大好評であった。

銘焼酎・コーナーでは渡邉副会長寄贈の博多麦焼酎の壷詰めと10回記念を戴した10本の壜詰めが各テーブルに配され、愛好家が特製柄杓で味わいを楽しんで、これはいけると好評であった。

懇親会は、最初に広瀬　剛・早稲田大学大学院法務研究科・法務教育センター事務長より、祝辞を頂いた。氏は前回まで募金関係でお見えを頂いていた。次に青木英二・目黒区長より祝辞を頂戴した。

乾杯の音頭は山田　実・東京23区支部支部長・杉並稲門会会長にお願いして、早稲田ビールで乾杯した。

間をおいて吉田成孝会員率いるマンドリン楽部(昭和37年卒校友9名）による「紺碧の空」、「アマポーラ」、「ビア樽ポルカ」、「川の流れのように」の演奏があり、熱烈なアンコールに応えて「いつでも夢を」の追奏があり、拍手喝采・好評を博した。

次いで、土川副幹事長による総会・新年会に初登場の会員7名の紹介に続き、当会設立時の功労者の紹介があった。功労者を代表して三木祐二郎・早稲田大学教務部参与より祝辞を頂いた。同氏は「コンバット・マーチの作曲者は私です。10年前23区幹事をしていたが、当時16あった稲門会を23区全部揃えた。その後、小豆島に戻り、3年前帰って来たが目黒稲門会の発展振りを見て嬉しい。おめでとう」と挨拶された。

八幡会長より本来目黒稲門会の身内の功労者として此処には初代会長の眞仁田さんが立つべきところ、今日はご都合が付かず欠席ですが、電話でお世話になった方々に心より御礼申し上げ、拍手をとの伝言が紹介された。

続いて、奥島前総長の十八番「人生劇場」の飛び入り熱演があり、やんやの喝采を浴びて会は最高に盛り上った。

時はあっと言う間に過ぎ、恒例の伏見会員のリードで全員肩を組み「都の西北」を高唱し、渡邉副会長による中締め挨拶をもって記念総会は閉会となった。

（島田　記）

総会の初参加会員

小倉利允、蠣崎利郎、小池早苗、高木亮一、杉浦良允、増井和明、中西元樹の各氏（左方から）

総会出席者名簿(敬称略)

(来賓)

青木英二・目黒区長、奥島孝康・早稲田大学学事顧問(前総長)、廣瀬　剛・早稲田大学大学院法務研究科・法務教育センター事務長、岩上健一・世田谷稲門会会長、山田　實・東京都23区支部支部長・杉並稲門会会長、田中見世子・設立当時の功労者(早稲田大学維持員)、野崎敬二(校友会常任理事・豊島稲門会副会長)、三木佑二郎(早稲田大学教務部参与)、小太刀昌雄・稲門祭実行委員・荒川稲門会幹事長、佐藤裕彦・稲門祭実行委員・大田稲門会幹事長、マンドリン楽部校友8氏

(会員：五十音順)

浅海敏之、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、有山勇次郎、安藤虎雄、石川智子、石川純子(母上)、伊藤　悠、稲垣博信、井村正陽、岩崎春雄、岩崎正夫、海口昭治、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、大野利幸、大野令夫人、大山高明、大山令夫人、小倉利允、尾崎　充、小野　満、海沼美智子、蠣崎利郎、笠谷興一朗、梶　恵作、柏木　博、加藤榮護、加藤令夫人、川崎真樹子、紀本直幸、桑野祐光、小池早苗、郡山弘文、小杉　哲、後藤克彦、佐伯文子、桜井輝隆、佐藤喜孝、嶋田勝彦、島田久家、庄野耕治、杉浦良允、杉浦令夫人、鈴木政雄、高木亮一、田島順一郎、田畑　繁、千野逸平、土川俊雄、手塚仁雄、外岡　明、外岡令夫人、中上美代子、中島侑三、永田耕治、中西千可子、中西元樹、服部尚彦、林田雅敏、樋口定廣、樋口俊彦、平田喜章、藤岡長世、伏見和則、星野聡史、堀井良造、牧野武夫、増井和明、松尾洋一、松田哲也、松戸　猛、村上　柾、村上　満、森家一三、保井　正、保井令夫人、八幡和三郎、山本堅太郎、横山　大、吉田成孝、吉田博行、米田文彦、渡邉三郎

「早稲田史発掘」発刊について

目黒稲門会の名簿には「出身高校」の欄がある。ところがそこに第一早稲田高等学院、第二早稲田高等学院と早稲田高等学院等々と記載があり、どの名称が正しいのか誤りなのか、名簿を整理していく過程で混乱が生じて来ました。そこで大先輩にあたる外岡相談役に(因みに外岡相談役は第一早稲田高等学院と記載)その違いをお伺いしたところ、名称の変遷を調べて頂く事になりました。

探究心の旺盛な相談役はなんと東京専門学校にまで遡って終戦直後の昭和20年半ばまでの環境、学制の変遷等を掘り起こして頂きました。そして知っているようで知らない「早稲田　豆知識」として「早稲田史発掘」の第11節に付け加えて頂きました。

外岡相談役の「早稲田史発掘」は多くの文献を参照し、本人や学友の日記や資料を加味して整理されています。大学当局も創立125周年の節目にあり、早稲田大学　大学史資料センター主宰で「戦中戦後期の学生生活」の聞き取り調査を行っていたというタイミングも有りました。

大学は創立125周年を迎えたが、我が目黒稲門会も設立10周年を迎えました。外岡相談役の纏められた冊子は大学の資料センターも感心する充実した内容であり、目黒稲門会の設立10周年を記念する刊行物として会員の皆様に配布してはとの多くのご意見を受け、「目黒稲門会・第107回役員会」の承認を経て、今回の配付に至りました。総会に欠席された会員には会報44号に同封させて頂きましたので是非ご覧頂きたい。外岡相談役には、この場をお借りして大変お忙しい時間を割いて短期間に資料を収集し纏めて頂いたご尽力に心から敬意と御礼を申し上げたいと存じます。

事務局長　吉田博行

カクテル実演と寄贈銘焼酎コーナー

懇親会の目玉の一つとして、林田監事と浅海幹事長に依ってカクテルの実演が披露されました。 カクテルは、『マティーニ』と『ビトウィーン・ザ・シーツ』でした。『マティーニ』は、『マンハッタン』と共に、カクテルの始まりと終わりを代表する有名なカクテルで、ジンとフレンチ・ベルモット、ビターズ、レモン皮をスクイズして作ります。『ビトウィーン・ザ・シーツ』は、女性に好評な一品です。「ベッドの中で」の意味合いの通り、飲んで少し経ってから効いて来ます。 キュラソーとレモン汁でほんのり甘酸っぱく、ラムとブランディの薫りの洒落たカクテルを皆で大いに楽しませて頂きました。

一方、福岡銘焼酎の壷詰め『天盃—宝壷』がコーナーにセットされました。これは、設立第10回記念総会を戴して、渡邊副会長から御寄贈頂いたもので、更に各テーブルには1本づつ、総会回数に合わせて計10本の御寄贈『天盃・博多どんたく』が用意されました。この焼酎は、筑紫平野産の二条大麦を原料として通常焼酎とは異なる再蒸留、自然流製法による最高の原酒『天盃』の自信作です。度数は40度で、全日空のファースト・クラスの機内ドリンクとして採用されており、焼酎ファンが殊の外賞味されていました。

会員絵画展

総会では会員初の絵画展が開かれ、油彩、水彩、デッサンなど多彩なジャンルから7点が出品されました。 日頃の趣味の結晶は、明るい画風に溢れ、展示会に華を添えました。 出品頂いた制作者と題名は次の通りでした。

藤岡長世氏 **『あじさい—多摩川公園-』**(F.8水彩)
中島侑三氏 **『タジマハール』** (F.10油彩)
岩佐好恭氏 **『トルソ』** (F.6デッサン)
服部尚彦氏 **『西洋人形』** (F.6油彩)
小野　満氏 **『青のランプ』** (F.6油彩)
杉浦良充氏 **『トライアングル・シンフォニー』**(F.10油彩)
佐伯文子氏 **『合掌』** (F.8油彩)

会員写真展

総会での会員写真展も初めての試みでした。
7名の会員が合計13点の作品を出品されました。
鋭い中にも暖かい気持ちを感じさせる展示会は好評でした。 出品頂いた制作者と題名は次の通りでした。

樋口定廣氏 **『釜滝の清流(河津七滝)』**
『ばら(河津バガテル公園)』
島田久家氏 **『百万ドルの夜景(函館山)』**
田端　繁氏 **『乱舞(目黒川堤)』**
浅海敏之氏 **『我が家のフレンチ・ドッグ』**
大野利幸氏 **『雪の白川郷全容(白川郷)』**
庄野　耕氏 **『アルプスからの手紙』**
『アルプスから舞い降りる』
『トロピカル・バケーション』
『サンセット・ジャーニー』
『南青山サンセット』
『ジャガー』
大竹一子氏 **『陽光(目黒川)』**

各部会の展示・報告

俳句部会

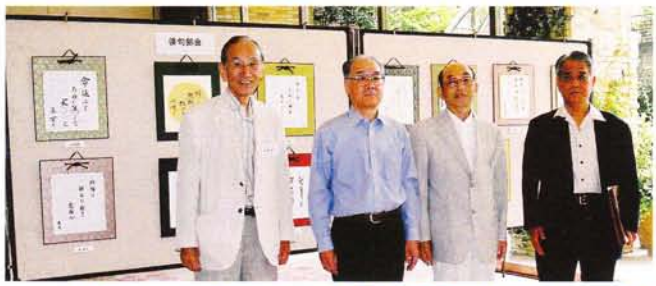
7月12日（日）開催の目黒稲門会設立第10回記念総会は各部会を紹介する展示が特別出展され、それがご参加者の好評を得、成功裏に終わられましたこと、まずはご同慶の至りです。

俳句部会におきましても、1月から始めました「俳句入門教室」が6月19日（金）で無事終了。総会の展示に各位が出された俳句がたまたま「教室終了記念創作展」を兼ねた様になり、記念すべき展示会となりました。

各自の出展作品は下記掲載のとおりでした。（順不同）なお（　）内は俳号です。

安藤虎雄　蚯蚓（みみず）鳴く爺や爺やと我を呼び　（虎雄）
梶　恵作　緑陰に朝より白き怠惰心　（恵作）
川井信義　老いて知る味の深さや根深汁（ねぶかじる）　（素山）
桑野祐光　蝉しぐれ熊野古道の杖のあと　（祐峰）
紀本直幸　命延ばすための熱さぞ寒（かん）やいと（直幸）
保井　正　ひつそりと櫻蘂降（さくらしべ）る宴の後　（寶正）
加藤玲子　くちなしの香に想ふ妹（いも）のこと　（紫雲）
外岡　明　巡礼の装束黄ばむ立夏かな　（明秀）
島田久家　浅草寺三社の神輿（みこし）荒れにけり　（久）
保井榮子　紫陽花を庭に咲かせて蕎麦屋かな（榮子）
服部尚彦　喧騒を別世界として花筏（はないかだ）　（尚彦）
米田文彦　紫陽花や豪農館鎮（ごうのうやかたしず）もれる　（文彦）
佐藤喜孝　山古志の復興願ひ牛角力（うしずもう）　（喜仙）

俳句部会長　佐藤喜孝



旅行部会

『旅行部会10年史準備顛末記』

旅行部会として節目の総会に向けた展示をどうするかと考え始めたのは4月頃だったでしょうか。なんとなくのイメージとしては（1）この10年を振り返り、記録として残す事（2）参加者にとって旅行を改めて思い出して貰う事（3）旅行未参加の会員に旅行部会の楽しさを知って貰う事（4）その為、20ページ程度のパンフレットの作成（5）写真は資料集として閲覧用にすることをやれば良いのかなと大雑把に考えていました。

しかし、私は5月、6月がボートのレースと練習に明け暮れることが目にみえていましたので6月下旬から2週間あれば十分だろう位に高をくくっていました。さて、6月下旬になって10年史を作ろうと資料整備に掛ったところ到底短い時間では無理だと直ぐに解りました。大竹初代部会長からの資料を含め、どうまとめるかも迷うところでありました。悪いことにパソコンが不調となり、文章も作れなくなり、パソコン技術の低い私としては本を買ってきたり、パソコン屋にもって行ったりで5日間位を無駄に過ごし、どうしたら良いものか途方にくれるばかりでありました。

そんな時、小杉幹事に相談したところ、そんなことはお安い御用とばかりに10年史の原稿修正をやってくれ、本当に助かったところです。写真は大野副会長にお願いし、直近のものをA4に焼き増してすませた次第です。最初は20ページと粋がっていましたが、結果やっつけ仕事の6ページで勘弁して貰うことにしました。また展示用の大型コピーは勤め先の小学校にて有料でA0をつくる事も出来、なんとか格好がつくなと確信出来たのは総会の2，3日前でした。

今回のことから、物事は一人だけでは何も出来ないことを改めてつくづくと実感した次第です。当日は展示場所も入口入ってすぐの目立つ場所で会員の皆様からも熱心に見て貰いホットしているところです。これまでに参加して頂いた会員の皆様とご支援いただいた皆様に感謝を申し上げます。有難うございました。

旅行部会として今年度11月の旅行をどの方面にするかまだ決めていませんが、日にち的には15日の一泊を出来たら30名以上の参加者で行いたいと考えております。皆様からのご意見をお待ちいたします。
(m_imuracda @ ybb.ne.jp)

旅行部会長　井村正陽

美術・歴史鑑賞部会

『知るを楽しむ—美術・歴史鑑賞部会7年(24回)の歴史』

目黒稲門会・第10回総会の展示パネル制作を機会に「美術・歴史鑑賞部会」活動の歴史を振り返ってみました。

初代部会長・八幡和三郎氏からバトンタッチしました資料をもとに振り返りますと、第1回・2003年11月21日「レンブラントとレンブラント派展」・国立西洋美術館でギャラリー・トーク19名の参加スタート。第2回・2004年1月11日「ミケランジェロ　ルネッサンスの巨人」講演会など、この年には7回も美術館での鑑賞を含めた活発な部会を開催。その後、旅行部会と共催で「熱海MOA美術館」、2005年3月5日には「目黒稲門会・歴史探訪シンポジューム」(幕末における生麦事件) を講師・眞仁田勉氏 (元東京都副知事)、高橋栄一氏 (月刊東京人編集長)、司会は八幡和三郎氏。バスをチャーターして、佐倉市「伊能忠敬記念館」、三島市「ビユフェ美術館」、真鶴町「中川一政美術館」。すでに「知るを楽しむ」をスローガンに24回の部会開催の実績 (絵画だけでなく、「古九谷名品展」、「京のやきもの　仁清・乾山・楽代々の歴史展」などの陶芸展も鑑賞) ができています。美術鑑賞会での平均参加者は15名から20名で、夫婦同伴での参加者も多い。

鑑賞後の食事会 (飲み会) では、絵画や作家の話で盛り上がり、次回を楽しみにしているとのお言葉をいただき、新たな企画を模索中でしたが、秋には茨城県笠間市にある「日動美術館」(私は印象派絵画が多いので日本のオルセー美術館と思っています) を予定しています。バスで目黒から約1時間半。名産は栗で、長野の小布施へも出荷しています。笠間稲荷神社、県立陶芸美術館などがあり、多くの芸術家が住み、一言でいえば「芸術・文化の匂いのするまち」です。

この秋は東京、横浜での美術展が次々と開催されます。機会がありましたらご紹介いたします。

美術・歴史鑑賞部会長　後藤克彦

ゴルフ部会

『ゴルフ部会の活動』

目黒稲門会ゴルフ部会は、鈴木正明氏が部会長となり、平成11年5月25日に第1回のゴルフ会を多摩カントリーで行いました。以後、回を重ねて来ましたが、鈴木さんが病のため亡くなり、大野が部会長を引き継ぎ、第16回より春秋にゴルフ会を行って来ました。往復バスで車中も楽しく過ごして帰って来ます。又、今までは同じゴルフ場で行ったことが無く、上位入賞者も入れ替わり楽しい会です。

第16回以降の記録を纏めて見ました。

第16回平成17年5月30日千代田CC参加者21名
　①服部尚彦、②保井榮子、③浅海敏之

第17回平成17年10月28日美浦GC参加者28名
　①伊藤　悠、②庄野　耕、③市瀬達夫

第18回平成18年6月6日妙義CC参加者24名
　①保井榮子、②村上明子、③三部由夏子

第19回平成18年10月24日阿見GC参加者21名
　①伊藤　悠、②加藤榮護、③吉田博行

第20回平成19年5月29日ゼコビアGC参加者16名
　①三部由夏子、②杉浦良允、③大野幸子

第21回平成19年10月11日富士箱根CC参加者15名
　①保井榮子、②大野幸子、③大野利幸

第22回平成20年4月22日オークビレッジGC参加者22名
　①村上明子、②外岡　明、③市瀬達夫

第23回平成20年10月14日御殿場GC参加者23名
　①大杉邦雄、②杉浦良允、③村上　満

第24回平成21年4月24日栃木ヶ丘GC参加者25名
　①牧野武夫、②松戸　猛、③佐藤祥枝

以上が実績ですが、次回のゴルフ会を次のように計画しております。

第25回ゴルフ会
　日時　：平成21年10月23日（金）
　場所　：カナリアガーデン・カントリークラブ
　　〒292-0511　千葉県君津市大阪　1228-1
　問い合わせ先：　03-3712-2444　大野宛

ゴルフ部会長　大野利幸

ウォーキング部会

新緑を求めて、5月26日由比ヶ浜から長谷、稲村ヶ崎へのコースをほぼ予定通りバラの鎌倉文学館から長谷寺など12名で踏破しました。

第30回記念湯河原一泊の5月17～18日の部会では15名で万葉公園での蛍狩り、湯河原と河津での滝巡り、バラの河津バガテル公園など初夏の涼感に浸りました。

第31回は7月14日油壺から諸磯湾のヨット群を横目に見ながら海岸線を8名で廻遊し三崎でのマグロ攻めの夏の宴で打ち上げました。

以上3回共個人差はありますが1万歩前後のウォーキングで夏バテに負けず全員健脚ぶりを発揮しました。

＜今後の活動予定＞

第32回　9月22日（火）－国民の休日

－鎌倉北の辺境の地にコスモスと彼岸花の中の守護神巡り－

大船駅東口（13時集合）―鎌倉芸術館―常楽寺（彼岸花）―多聞院―熊野神社―白山神社（彼岸花）―今泉不動・称名寺（黄花コスモス、萩、秋明菊など）―散在ヶ池森林公園―大船駅

第33回　10月17日（土）

－箱根の歴史散策のメインコース巡り－

箱根登山鉄道箱根湯本駅（13時集合）―元箱根バス停―箱根神社―万巻上人奥津城（墓）―箱根神社宝物殿―興福院―成川美術館―旧街道杉並木―県立恩賜箱根公園―箱根関所資料館・箱根関所跡―箱根湯本駅

第34回　11月18日（水）－－大山寺御開帳日

－神奈川県随一の紅葉の大山寺詣り－
（大山山頂へは登らないコース）

小田急伊勢原駅北口（12時30分集合）4番バス停―大山バス停―愛宕滝―良弁滝・開山堂―茶湯寺―追分駅（ケーブル）―下社駅―阿夫利神社下社―大山寺（いろは楓紅葉）―八意思兼神社―和仲荘（豆腐料理で紅葉宴）―大山ケーブル駅バス停―小田急伊勢原駅

☆　入会・参加ご希望の方は桑野までご連絡を！

☆　現部会員数　30名

平成18年3月“鎌倉花散歩の会”としてスタートしたウォーキング部会は、その会の名の通り鎌倉文化と季節の花と健康増進という3つのキーワードのもとこの3年余を経て今や30回に達しました。　今回の展示では、中央左右の神奈川県と鎌倉市内の地図にウォーキング実績コースを示しました。写真は左下から河津行き計画書、湯河原の不動滝、二宮散策、桜の三ッ池公園、源氏山公園の頼朝公像前、梅の瑞泉寺での記念写真です。右下の表はこの3年間のウォーキング実績一覧（地域、花、コースポイント）です。

ウォーキング部会長　桑野祐光

初代23区支部長の輩出、及び地域貢献の歴史

目黒稲門会の発足以前の事柄、地域貢献の歴史についての説明、目黒稲門会の会員在住場所と顔写真地図などの歴史の展示が行われた。

平成15年東京23区支部が誕生し、その初代東京23区支部長として目黒稲門会の初代会長・眞仁田　勉氏（目黒稲門会　相談役）が就任された事などが解説された。　　23区支部幹事　大竹一子

囲碁部会

(1)　第9回オール早稲田囲碁祭開催

6月6日（土）日本棋院市ヶ谷本院において、早稲田大学の卒業生（校友）、教職員、囲碁会OB、現役が一同に会する囲碁大会が、290人の参加を得て盛大に開催された。目黒は2チーム10名が参加したが共に成績振るわず、2年連続で入賞漏れとなった。その中でも目黒Aでは大久保健治6段（S.37年理工）が4勝0敗、目黒Bでは永田耕治初段（S.36年商）、鵜野洋治1級（S.39商）が3勝1敗の好成績をのこした。

(2)　対杉並稲門会親善囲碁大会

8月9日（日）新宿天元で初めての他稲門会との他流試合が開催され、目黒から13名が参加した。棋力も7段から5級まで幅広く、特に級位者に飛躍の機会を与えようと企画された。

(3)　夏季囲碁入門講座開催

「全く囲碁を知らない校友」を対象に独力で終局まで打てるようにする内容の講座が、早稲田大学校友会事業委員会が主管して、8月26日から9月18日までの10回、会費1万円、大隈記念タワー校友会サロンで開催。目黒から小谷友宏氏（S.44年政経）が参加。

囲碁部会長　保井　正

グルメ部会

グルメ部会は目黒稲門会設立とともに発足した六つの部会の一つであり、第一回会合は1999年に原宿の『カーニバルビュッフェ、フランス料理食べ放題』でスタートしました。その後毎年数回の会合を持ち、発足間もない目黒稲門会の親睦の輪を広げる一助となりました。

直近の会合を下記にご紹介します。

2007年2月　豆腐料理　芝「とうふ屋うかい」
2007年9月　ナイター競馬観戦ビアーパーティ
　　大井競馬場「ダイヤモンドターン」
2008年5月　和食三昧　明治記念館「羽衣」
2008年8月　ビアーパーティ　恵比寿
　　「銀座ライオンガーデンプレース店」
2008年9月　新そば会　麻布十番「更科堀井」
2009年8月　ビアーパーティ　赤坂卑弥呼

『食は目黒にあり』を標榜するのがグルメ部会です。早大OBの芥川賞作家、辺見氏の「物食う人々」を一読すれば、我々は生きるために食べるのではなく、食べるために生きていることが納得できます。 人生とは食することである、と理解すれば楽しく平和な人生を送ることができます。リーズナブルな値段で美味しいものを召し上がりたい方、ご参加をお待ち致しております。

グルメ部会長　海沼美智子

和食三昧　明治記念館「羽衣」

広報編集委員会

会報は現在年4回発行され、目黒稲門会会員の情報源として本号で44号を発行した。これまでの編集の歴史と別刊として発行された奥島前総長の講演原稿を先生自ら校正頂いた原紙を展示させて頂いた。奥島先生の丁寧、緻密な校正は、お人柄を表す片鱗として感動を与え、会報編集の素晴らしいお手本を頂いた。

カラオケ部会

『カラオケ部会10年を迎えて』

第1回　平成11年10月10日（日）3時～6時
　於バッハ、世話役　井本成彦、会費3000円、2～3ヶ月に1回、日曜開催、井本成彦、山口一男、小川裕正、樋口定廣、横山　大、浅海敏之、土川俊雄、長島清志、計良勝利、海口昭治、中西千可子、志田力夫（鮨八）、武部道雄（中野稲門会）、13名、45曲（歌詞は1、2番とする）、取り決め事項：1. 同伴者（会費割引）を促進、永楽クラブの活用、2. 次回は違う曲を歌うこと

第2回～第3回　15名、64曲
　拡大案について：口コミ、女性の都合の良い時間帯

第4回　平成12年4月16日、世話役　山口一男
　会費：男性3000円、女性1000円、歌唱点数制、35曲中最高点96点中西千可子

第5回～第9回　51名、154曲、申し合わせ事項
　次回より2ヶ月に1回とする

第10回　平成13年5月20日　18名、56曲
　世話役　海口昭治　30曲中96点中上美代子、94点大野利幸

第11回　平成13年7月15日　18名、46曲
　98点（3名）中西千可子、鈴木佑子、横井　宏、

第12回～第18回　64名、248曲、98点中西千可子（3回）、大野幸子（2回）、94点大野利幸、92点中上美代子、桑野祐光、全平均点83点桑野祐光

第19回　平成14年11月10日　会場をスタジオ・サンステップ店に移転、10名、30曲、点数制廃止

第20回～第26回　82名、298曲

第27回　平成16年3月14日、アンケートの結果
　毎月第2日曜日2時半～5時半、14名、44曲

第28回～第33回　77名、274曲

第34回　平成16年10月17日（第3日曜日）
　会場を大野夫妻の紹介により新開店のコート・ダジュール学芸大学店に移転、11名、36曲、次回より5時～8時

第35回　平成16年11月12日（第2金曜日）
　13名、39曲

第36回～第37回　25名、96曲

第38回　平成17年2月18日（第3金曜日）
　会場の都合により4時～7時、12名、41曲

第39回～第50回　142名、519曲

第51回～第81回　会員数増加最高18名

第82回　平成20年10月10日～第90回　平成21年7月10日、3時～7時に変更、コートダジュール店、ダム配信曲＝792曲使用、毎回終了後校歌または紺碧の空、同期の桜を斉唱で散会

カラオケ部会長　海口昭治

麻雀部会

(1) 三区連合親善麻雀大会

4月11日（土）、渋谷の麻雀クラブ「スリーハンドレッド」に於いて、第23回三区（目黒・渋谷・世田谷）連合麻雀大会が渋谷稲門会主催により開催されました。24名参加による親睦を深めた競技の結果、目黒勢は優勝は逃しましたが、準優勝・横山副会長、三位・中村氏と健闘しました。

(2) 定例麻雀大会

6月28日（日）、武蔵小山の麻雀クラブ「サン」に於いて第38回定例麻雀大会が開催されました。今回は村上氏が初参加（大久保幹事が見学）のほか目黒三田会から安川・鴨志田両氏が部会立ち上げのために研修参加され、20名による和気藹々の半チャン4ゲームの結果、優勝は千野氏、準優勝は小池氏でした。

(3) 今後の大会予定

次回の三区（目黒・渋谷・世田谷）連合親善麻雀大会は目黒稲門会主催により10月24日（土）を開催予定しております。皆様奮ってご参加ください。

麻雀部会長　松尾洋一

若木会（旧・目黒稲門若手会）

「若木のように瑞々しく、のびのびと育ちゆけ」との願いと期待をこめて、「若木会」という新名称を外岡相談役がご提案下さいました。7月の若手食事会で参加者全員の賛同を得ましたので、これからも「若木会」一同、仲良く前進して参ります。

今年も花見会・食事会を実施し、HPで開催案内しますので、皆様のお越しを歓迎致します。先輩方を交えた「心の若木会」も今年あと一回開催します。

若木会幹事　石川智子

校友会便り

「稲門祭」は校友による校友のための祭典で、卒年に関係なくどなたでも参加できるイベントです。本年は10月18日（日）に開催されます。

1) 記念品購入で新奨学金に支援を
稲門祭で販売される記念品購入金は新たに設立された「稲門祭奨学金」として、経済的に修学困難な学部生の支援奨学金に活用されます。
—記念品購入に御協力をお願い致します。

2) 稲門祭アトラクション：12：00～
早稲田キャンパス、大隈講堂、大隈庭園にて校友アスリートによる握手会、スポーツ・トークショー、応援部・体育各部パレード、等イベントを開催します。

3) 福引抽選会（大隈講堂）：15：00～

4) 23区稲門会による模擬店出店（大隈庭園）
：12：00～15：00
目黒稲門会は大隈庭園の芝生で毎年親睦会を開催しています。会員の気楽な御参加をお待ちします。

23区支部幹事　大竹一子

事務局便り

『目黒稲門会第10回総会を終えて』

平成21年7月12日（日）こまばエミナースにて、第10回総会（設立10周年）を開催することが出来た。中締めの渡邉副会長の挨拶が終わり、奥島前総長を初めとするご来賓の皆様を八幡会長とお見送りした時、これほどホットした事があったろうか。

約1年前、第9回総会が終了し次回は第10回の記念大会になると話題に上った時から作業は始まったような気がする。それから構想を考え、日程、場所、ご来賓またどのような企画にするか検討を重ねてきた。（途中新年会で企画の検討は中断）

* 2月9日に開催の「第111回役員会」で実行委員会を、会長、幹事長、副幹事長、保井副会長、服部編集長、小杉幹事、事務局長で立上げ（後藤幹事、大竹幹事、石川幹事を後に追加）、各部会長へはその都度協力をお願いする事にした。開催日は母校の商議員会のある7月4日を避け、7月12日（日）、会場は毎年総会・新年会で協力頂いているこまばエミナースに決定した。
* 4月6日（月）の実行委員会で検討し同日の第113回役員会で以下の企画案に確認と承認を得た。
  - 大学からの来賓は10周年にふさわしい方のご出席を依頼する（担当：後藤幹事）
  - 目黒稲門会設立当時お世話になった方を招待（担当：土川副幹事長）
  - 近隣稲門会会長、目黒三田会、目黒区長へ案内状を送る（事務局）
  - 稲門祭記念品の販売（担当：大竹幹事）
  - 各部会の活動報告と会員による絵画、写真、書等展示
  - すでに企画提案されている、マンドリン楽部37年卒OBによるマンドリン演奏（担当：吉田（成）会員）とカクテルコーナー（担当：林田監事・浅海幹事長）
  - 外岡相談役が編集した「早稲田史発掘」を総会当日参加者に配布をする。
  - その他会員のパフォーマンスを要請する。
  - 5月12日（月）の役員会の前に第2回準備委員会

を開催各担当の進捗状況を確認

* 5月12日、6月1日の役員会での検討を経て、7月6日総会1週間前の「第116回役員会」で以下の最終確認が出来るところまで漕ぎ付けた。
  - ・大学からは奥島孝康・学事顧問、廣瀬剛・大学院法務研究科・法務教育センター事務長が出席。近隣稲門会からは東京都23区支部支部長・杉並稲門会会長山田實氏、世田谷稲門会会長岩上健一氏、稲門祭記念品販売応援として荒川稲門会小太刀幹事長、大田稲門会佐藤幹事長が出席。目黒稲門会設立時にお世話を頂いた田中見世子氏、野崎敬二氏、三木佑二郎氏、それに青木目黒区長と10氏のご出席を仰ぐ結果となった。
  - ・展示に関しては服部編集長が全体を総括、絵画は中島侑三氏と服部編集長が担当、写真は大野副会長担当、設立当時及び東京都23区支部関係の展示物は大竹幹事、各部会の展示はゴルフ、ウォーキング、カラオケ、グルメ、俳句、美術歴史鑑賞、旅行の出展可能な各部会長、副部会長担当のもと準備が進められていた。
  - ・絵画は藤岡長世、中島侑三、岩佐好恭、服部尚彦、小野満、杉浦良充、佐伯文子の各氏。
  - ・また写真は樋口定廣、島田久家、田畑　繁、浅海敏之、大野利幸、庄野　耕、大竹一子の各氏に作品の出展を仰ぐ事になった。
  - ・その他目黒稲門会の会報、EXPRESS、その他刊行物等の展示、第1回総長杯の優勝杯等の展示
  - ・林田雅敏、浅海敏之両氏のカクテルコーナーでは、カクテルの代表「マティーニ」と女性に人気のある「ビトウィーン・ザ・シーツ」の実演。さらに渡邉副会長のご好意で博多麦焼酎「天盃宝壺」の差入れの申し出があった。

一抹の不安はあったが、期待が大きく膨らむ「第10回総会」は7月12日総勢103名と目黒稲門会過去最多の参加者をもって盛大に総会・懇親会が開催出来た。また稲門祭記念品販売も販売応援隊の努力も実って、予定額を大幅に上乗せして324,000円に達した。

第10回総会は、企画実現に向かってご苦労をされた実行委員、展示に協力を頂いた部会長初め絵画、写真を出展して頂いた会員、何度も練習を重ねて臨んだマンドリン楽部、最後までシェイカーを振り続けた林田監事、浅海幹事長、数回に及ぶ打合せに応じて頂いたこまばエミナースの館長とスタッフ、そして当日ご出席を頂いたご来賓ならびに会員とご家族、すべての皆様の暖かいご理解と力強い援助・協力で成し遂げることが出来たと、心から感謝と御礼を申し上げたい。

目黒稲門会はこの成果を糧に、次ぎの10年に向かって一歩を踏み出すことになった。

目黒稲門会事務局　吉田博行

特別寄稿

『10年の祝事と47年ぶりの快挙』

大山高明（昭43年　商）

目黒稲門会が設立されて早や10年が経った。平成10年5月に目黒区在住の校友会費納入者900名に大学当局よりアンケートが送られ、22名から目黒稲門会の設立準備に協力する回答を得たという。同年9月25日大隈会館二階の大部屋に目黒と港区よりのボランティアが集合した。目黒からは浅海敏之、土川俊雄、海沼美智子、岩崎正夫、都築秀行、薪塩文夫、中沢新平、鈴木正明、阿部喜久雄の各氏に小生も末席を汚した。

その全体のリーダー格でもあった三木祐二郎氏(現総長室参与）の挨拶が耳に残る。曰く、「地区稲門会の設立は今まで考えられてきたが、早稲田は慶応と異なり所謂左翼活動が活発なので、このような都市の拠点が却って左翼勢力に利用されるのではと心配してきたが時代も変わった。23区のうち残るは目黒区と港区だけとなった。」とのことであった。当日参加出来なかった樋口定廣氏（初代事務局長）は翌日岩崎氏の自宅を訪れ、会合の経緯を詳しく尋ねられたという。

爾来ボランティアが区内各所で13回の会合を重ね設立に向けて汗を流した。樋口氏は碑文谷のご自宅に皆を集め会報の創刊を提案された。幸い小生の学友杉浦良允氏がその方面の専門家であったので制作を依頼した。これらボランティアの努力によって平成11年1月30日、ウェスティンホテル東京で設立総会とパーティの開催にこぎつけたわけである。小生、日々の活動には何らの貢献もしていない会員ではあるが、役員諸氏のご尽力により10周年を迎えられたことは誠に慶賀にたえないことであり、更なる会の発展を祈るのみである。

さて、もう一つ嬉しいことがある。小生が青春を燃焼させた早稲田大学少林寺拳法部が創設されたのは昭和37年のことであった。爾来、同好会から正式な体育会部への昇格申請を10年位の間隔で行ってきた。直近では平成12年にも認められずに涙を飲んだ。その後、種々の陳情活動を行ってきたことが功を奏し、本年3月に学生部より通知を受け、4月1日より正式に競技スポーツセンター所属の体育会各部として認められることとなった。10年前にラクロス部が昇格を認められて以来44番目の体育会入会であり、少林寺拳法部創設以来47年ぶりの快事である。この間、目黒稲門会の土川氏（体育会水泳部OB）や先の総長室参与の三木氏には大変ご心配賜り、後押しをいただいたことに心より感謝している。

還暦をとうに過ぎて最近特に感じることは、全ての事象が何処かで関連してくるという人の「縁」の不思議さである。皆さん、出来るだけ健康に長生きして、交友を深めましょう！

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。　平成21年9月現在

部会名	部会長 担当幹事	連絡先 電話/Fax	参加人数	当日会費	活動概要
囲　碁	保井　正		30数名	200円	毎月1回（下目黒住区センター）
カラオケ	海口昭治		15～20名	3,000円 女性2,000円	毎月　第二金曜　午後3～7時 (コートダジュール学芸大学店B1)
グルメ	海沼美智子		20～30名	6,000円～ 10,000円	年3回程度　リーズナブルな金額と雰囲気・味の良い店を厳選
ゴルフ	大野利幸		20～30名	25,000円程度	年2回　春秋 目黒通りバスで送迎
ウォーキング	桑野祐光		15～20名	なし(各自負担)	シーズン中は毎月1回程度
麻　雀	松尾洋一		10数名	3,000円	年6回　武蔵小山“サン”　および渋谷“スリーハンドレッド”
美術・歴史鑑賞	後藤克彦		30～40名	その都度	年3～4回
旅　行	井村正陽		20～30名	その都度	年2回　春秋
若木会 (目黒稲門若手会)	石川智子		10名程度	5,000円	年数回　土曜夜　若手の企画に広い層の参加を期待
よん月会	土川俊雄		15～30名	4,000円	毎月　第4月曜　午後6～8時 (「あっぱれ」都立大学店)
俳　句	佐藤喜孝		13名	5,000円／年	毎月　第3金曜　午後2～5時 下目黒住区センター
広報編集委員会	服部尚彦	eメール URL	meguro-tomonkai@nifty.com http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/		

ホッとする吉田事務局長（実行委員長：左端）と
石川幹事（司会：右端）

新入会員

増井和明　氏　　（昭和37年　商）
趣味：ボウリング、麻雀、囲碁（東が丘在住）、会長にお話を伺い入会させて頂くことになりました。　卒業後（株）ニチレイ及び関連会社に勤務し、3年半程前に退職、以降は日々楽しくをモットーに気ままに過ごして居ります。よろしくお願い致します。

伊藤正芳　氏　　（平成9年　政経）
趣味：読書、海の森苗ボランティア（五本木在住）、平田さんからご紹介頂きました。8年も目黒に在住し、近々渋谷に転居予定です。目黒、早稲田にも愛着があり、是非目黒稲門会に籍を置かせて頂ければ幸いです。

ＨＰ便り

目黒稲門会ホームページ（HP）を是非ご覧願います。わざわざURL（上記）を入力しなくても『目黒稲門会』で検索すれば一発で出てきます。

また、HP左端のブログの項から目黒稲門会アーカイブスをクリックすると、過去の全ての会報や新年会等会合の様子が動画形式でご覧いただけます。

（小杉　記）

編集後記

本会報は設立第10回記念特集号として充実した総会の様子を伝え、記録する為に通常の8ページを超え、12ページに増頁する初の試みに挑戦した。

奥島前総長の早稲田スピリッツ溢れるお話と十八番の「人生劇場」、会員を機軸としたマンドリン楽奏、カクテル・サービス、寄贈銘焼酎コーナー、更に各部会からの企画展示、写真展、絵画展、会報編纂史、地域活動など多彩、充実した目黒稲門会及びその会員の10年の歩みを綴り、振り返る多彩さに加え、「早稲田史発掘」の刊行など学術、文化に幅広く取り組んだ会となった。　参加来賓は「この文化祭は毎年なさって居るのですか」と驚嘆されて居られた。

活動の力を集約する相応しい場となったことは、会の一員として誇らしいことであった。（服部　記）